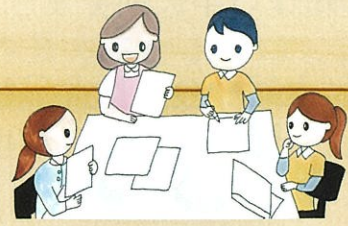
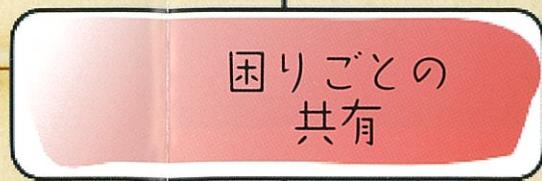


先生方との情報共有

Aくんの基本情報と困りごとに関連する情報を担任・園長と共有



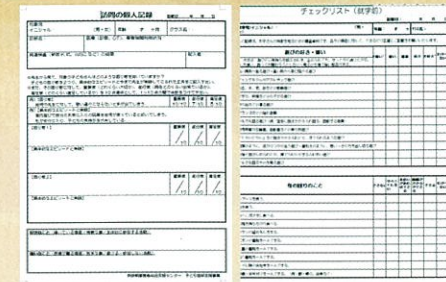
1



Aくんの困りごと

モデルケースの提示

- ・みんなと同じように体操が出来ず、イライラする
- ・姿勢が悪く、全体的に運動が不器用



行動チェックリストの作成
※子ども地域支援事業HPIに原本掲載

観察評価

普段の生活場面から評価

- ・身体機能（姿勢/協調運動など）
- ・認知機能、コミュニケーション
- ・遊びの様子 など

事前検査実施

評価バッテリーを利用し、検査を実施

※JPN、JMAPなどから抜粋



腹臥位伸展；掌が床につき、手足が浮かない
片足立ち；バランスが不安定で、すぐに足が床につく

2



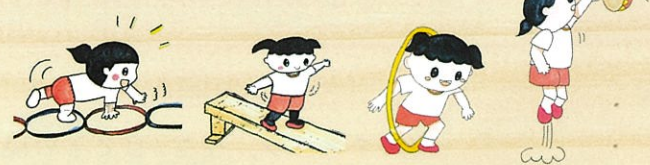
目標設定

Aくんの発達課題と考えられた姿勢と身体イメージの発達を目指した支援の提案に加えて、Aくんの成長を促しやすいように、当時園で取り組んでいた鉄棒のぶら下がりを発達目標の目標に設定した。（※GAS参照）

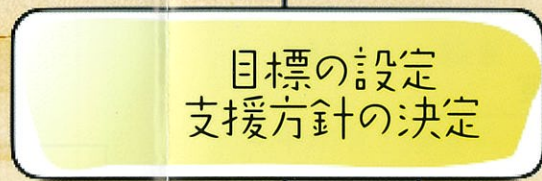
スコア	
期待される結果より高いレベル	2 鉄棒ぶら下がりが10秒できる
期待される結果より少し高いレベル	1 鉄棒ぶら下がりが5秒できる
期待される結果	±0 鉄棒ぶら下がりが1秒できる
現状	-1 鉄棒ぶら下がりができない
期待される結果より低いレベル	-2 鉄棒ぶら下がりの活動に参加しない
変動因子	持続的因子

支援内容の提案

事前検査の結果を元に、園で出来る遊びや活動を紹介



3



作業療法士の評価・支援方針を先生方と共有・修正

【作業療法士による見立て】

- ・筋緊張の低さから次の動きへスムーズに切り替えにくかったり、身体がぶらつきやすい
 - ・身体イメージの曖昧さから、手足の動きが捉えにくかったり、協調的動きが難しい
- 以上からAくんは体操（ダンスも含めて）で思うようにカラダが動かせない状態にあると考えた。



4



幼稚園での取り組み その①

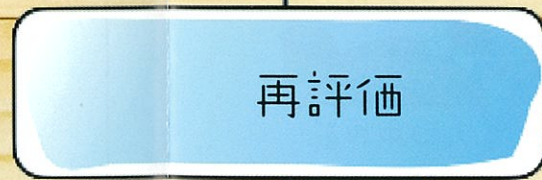


園全体での取り組み

上靴の着脱手順表

- ① 足を入れる
- ② 足を後ろに曲げる
- ③ 踵をひっ掛ける

5



作業療法士の提案を受けて、先生が幼稚園で実践可能な研にアレンジし、活動を行なった。また、クラスの課題となっていた靴を立って履く動作もAくんの発達課題と関連していたため、手順表を作成し、日々取り組める活動として支援内容に組み込んだ。

支援内容の軌道修正

1か月後、再びAくんの保育場面の様子を観察し、支援内容を修正

ぶら下がり
腕が伸び、頭が反り返る



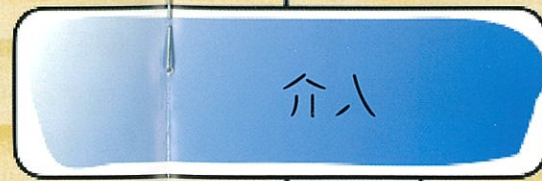
腕をしっかり曲げて、顔が正面を向いている
モデルイラストを貼り、正しい動きをわかりやすくした。

提案した活動内容が多く、難しい動きも多かった為、下記の種目に絞り、毎日実施するように再度提案した。

- ①台によじ登る
- ②フープ内にジャンプ
- ③両足を揃えて連続ジャンプ

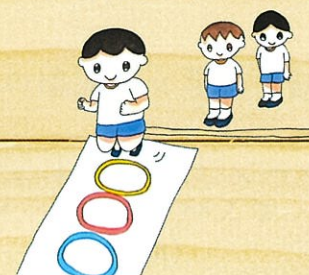


6



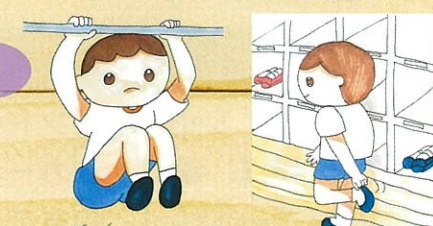
幼稚園での取り組み その②

クラス全体での取り組み



ぶら下がりの様子 上靴を履く様子

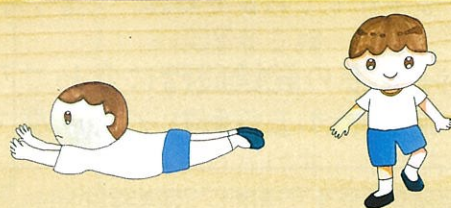
最終結果



目標達成確認

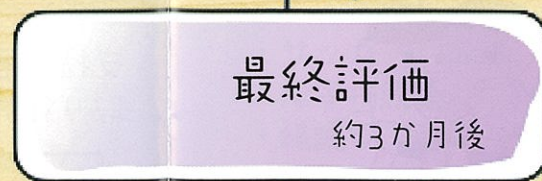
スコア	
期待される結果より高いレベル	2 鉄棒ぶら下がりが10秒できる
期待される結果より少し高いレベル	1 鉄棒ぶら下がりが5秒できる
期待される結果	±0 鉄棒ぶら下がりが1秒できる
現状	-1 鉄棒ぶら下がりができない
期待される結果より低いレベル	-2 鉄棒ぶら下がりの活動に参加しない
変動因子	持続的因子

事後検査実施



腹臥位伸展；手足が床から浮き、長時間姿勢保持が可能
片足立ち；不安定ながらも、事前検査時より長く床から足が浮く

7



軌道修正した支援内容に基づき、クラス全体で両足ジャンプを毎日取り組んだ結果、Aくんだけでなく他の子ども達の成長も見られた。A君は、ぶら下がりが10秒以上できるようになり、靴も立ったままバランスを崩さずに履けるようになった。動きのぎこちなさは残るが、自身の困り感到に細かく気付けるようになったことで助けが求められるようになり、イライラが減少した。